

(17) 婦人科（井田病院）（選択科目）

◎ 婦人科研修カリキュラム責任者： 岩田 壮吉 婦人科部長

A. 研修目標

1 一般目標

- 4) 婦人科患者を自ら診察し、適切な初期診断を行う積極性と技能を獲得し、専門医に移管するまでの初期診察を行う技術を修得する。
- 5) 女性であり、母性である婦人科患者の実態を理解し、いたわりの心を持って、その診察に当たる態度を身につける。
- 6) 婦人科患者に指導医と共に診察し、一般的診療能力を身に付ける。

2 行動・経験目標

- 1) 婦人科患者の問診を行い診断に必要な事項を聞き出し、記録できる。
- 2) 婦人科的一般診察法を行い、所見を正確に記録・評価・指示できる。
- 3) 主な婦人科疾患に必要な診断を計画し、実施または指示できる。
- 4) 主な婦人科疾患の治療および教育計画を立てることができる。
 - ☐ 子宮筋腫 ☐ 卵巣嚢腫 ☐ 子宮頸癌 ☐ 子宮体癌 ☐ 卵巣癌
 - ☐ 不妊症 ☐ 卵巣機能不全 ☐ 子宮外妊娠 ☐ 骨盤腹膜炎
 - ☐ 外陰炎・膣炎 ☐ 更年期障害 ☐ 性器脱 ☐ 骨粗鬆症
- 5) 婦人科緊急患者の初期診察ができる。
 - ☐ 性器出血の応急止血法を実施でき、鑑別診断の実施または指示できる。
 - ☐ 子宮頸癌 ☐ 筋腫分娩 ☐ 過多月経
 - ☐ 腹腔内出血の有無を早急かつ正確に診断し応急処置ができる。
 - ☐ 子宮外妊娠 ☐ 卵巣出血
 - ☐ 骨盤内腫瘍の茎捻転および破裂を鑑別診断し応急手術の必要性を判断できる。
 - ☐ 卵巣嚢腫茎捻転 ☐ 卵巣嚢腫破裂
 - ☐ 骨盤内の炎症の存在を発見し応急処置ができる。
 - ☐ 骨盤内炎症疾患（卵管炎、卵管留膿症）
- 6) 婦人科手術の助手を勤められる。
 - ☐ 卵巣嚢腫摘出術 ☐ 付属器摘除術 ☐ 筋腫核出術 ☐ 子宮全摘術
 - ☐ 腹腔鏡手術 ☐ 子宮鏡手術

B. 研修計画

- 1 研修期間： 4週
- 2 当直： 週1回
研修医は患者の診察を指導医とともに実施し研修を行う。
- 3 スケジュール 下記は一例であり研修状態により適宜変更が行われる。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	手術	回診/外来	回診/外来	手術	子宮鏡
午後	子宮鏡	子宮鏡	子宮鏡	手術	回診
夕方		カンファレンス		回診	

4 病棟における役割

研修医の受け持ち患者は指導医が主治医である患者および研修に適切と見なされる患者を受け持ち、朝夕2回の回診を行い、指導医または主治医と相談して診療に関与し研修の実績を上げる。

2) 受け持ち対象患者

- 子宮筋腫
- 卵巣嚢腫
- 子宮癌
- 卵巣癌

3) 外来

初診 : 初対面の患者に対して問診技法を活用して患者の問題情報を得る。

再来 : 初診の患者が初期治療によってどのように経過したか知る。

3) カンファレンス

クリニカルカンファレンス：症例の提示の仕方を学ぶ。

C. 指導体制（責任者、指導医は別表参照）

岩田 壮吉

日本産科婦人科学会 産婦人科専門医・代議員

日本産科婦人科内視鏡学会 腹腔鏡手術技術認定医

日本産科婦人科内視鏡学会 子宮鏡手術技術認定医

日本産科婦人科内視鏡学会 評議員・内視鏡手術技術認定審査委員

日本生殖医学会 生殖医療専門医

日本女性医学会 女性ヘルスケア専門医

厚生労働省 臨床研修指導医

秋葉 靖雄

日本産科婦人科学会 専門医・指導医

日本専門医機構 産婦人科 専門医

日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医

日本臨床細胞学会 専門医

D. 研修評価

- 1) 研修医は、経験目標に従って、自己の研修内容を研修医手帳に記録し、退院サマリーを記載し、指導医に提出しフィードバックを受ける。
- 2) 研修終了時に、当院研修医評価票に基づいて評価を行う。